



卒業記念に ILC看板制作

奥玉小学校を3月に卒業した6年生14名が卒業記念として制作したILC看板の完成お披露目式が、3月11日に同校正門前で行われ、全校児童のほか看板制作関係者が完成を喜び合いました。

式では、児童を代表して藤野嵩生君と藤原駿君が「ぼくたちが大人になる頃、ILCが実現し、世界中の人々と協力して未来を切り拓くことができれば素晴らしいことだと思います。その日を目指して、自分に何ができるか考えて行動していきたいです」とあいさつ。3枚の看板は、より多くの人の目に触れ、ILCを身近に感じ、興味を持ってもらえるようにと、毎日通う小学校入口のほか、千厩町奥玉の大平集落センター地内、同町清田のメガソーラー施設地内に設置されました。

この看板は、同校6学年PTAが、市の「子どもたちによる地域の情報発信事業」を活用して制作したもので、制作前にILCの出席授業を受講したり、奥玉宇宙遊学館を見学するなど、ILCや宇宙について理解



メガソーラー施設地内



大平集落センター地内

を深めながら、親子で制作に取り組んだものです。

看板の大きさは、縦2メートル×横4メートル、デザインは、ビッグバンをイメージしたものや世界中の人々が手を取り合う姿が描かれ、「岩手から世界に羽ばたけ奥玉の子ども」とメッセージが書かれています。

Contents

- ◆卒業記念にILC看板制作
- ◆G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議開催記念シンポジウム
- ◆小学校などに「ILCかるた」を配付
- ◆ILCジオラマ・パネルの展示
- ◆東山小学校の授業参観でILC授業を開催
- ◆市議会ILC誘致・学術研究都市づくり調査特別委員会
- ◆ニュースクリッピング
- ◆Ichinoseki Lives Cosmopolitan
- ◆教えてナイトさん!
- ◆お知らせ

G7仙台財務大臣・ 中央銀行総裁会議 開催記念シンポジウム

先進7カ国（G7）仙台財務大臣・中央銀行総裁会議開催記念シンポジウム「国際リニアコライダーと東北の創造的復興」（主催（一社）東北経済連合会）が5月12日、仙台市内のホテルで開催されました。

基調講演では、早稲田大学特命教授伊藤滋氏が「国際リニアコライダーと新しい東北の創造」と題して講演。「加速器の製造には、大企業だけではなく、地域の

* ILCニュースの英語版を一関市国際リニアコライダー推進ホームページに掲載しています。

* An English translation of this newsletter can be seen on the English page of Ichinoseki City's ILC website.

企業の協力が不可欠」「東北には精密な加速器をつくる技術力がある企業が多くあり、活躍の場が与えられる可能性が高い」と強調し、ILCが実現すれば、盛岡から仙台の間に新たな産業が展開されるであろう」と語りました。



パネルディスカッションの様子

続いて行われたパネルディスカッションでは、東北経済連合会産業経済部長の西山栄作氏が進行役を務め、東北大学大学院経済学研究科教授大滝精一氏、同大学院理学研究科准教授佐貫智行氏、東北大学災害科学国際研究所副所長奥村誠氏、同大学キャンパスデザイン小貫勲子氏、(株)千田精密工業取締役千田ゆきえ氏

をパネラーに、ILC誘致に向けた課題や、ILC実現を見据えたまちづくりのあり方などについて、ILC運用開始期間・建設期間の予備準備期間・準備期間のそれぞれの期間における課題や必要となる取り組みなどを討議。ILC建設期間の課題として、「ILCの部品を国内外から現地に運ぶ際の輸送体制や、運び込んだ機器を点検する検査拠点が必要」「ILC部品の運搬経路の整備について、後々の維持管理や使い道を意識した整備が必要」との指摘や、ILCへの地元企業の参入について、「企業が自社の成長戦略にILCをどう位置付けるかが重要」「どうすればILCに関われるかを常にアンテナを高くして情報を集めることが参入のきっかけになる」との意見が交わされました。ILC実現を見据えたまちづくりのあり方については、「東北の自然や伝統文化、食を生かしながら、施設整備に地産木材を活用するなど、東北らしさを生かした魅力ある地域づくりを考えていくことが必要」といった意見

が述べられ、参加者はILCをきっかけとした産業振興や地域づくりのあり方について理解を深めていました。

ILCを楽しく学ぶ
小学校などに
ILCかるたを配付



市内小学校などに配付したILCかるた

市では、次世代を担う子どもたちに、遊びながら楽しくILCを学んでもらえるよう、市内の小学校(全クラス)、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、市民センターなどに「ILCかるた」を配付しました。

このILCかるたは、高エネルギー加速器研究機構(KEK)が全国から読み札を募集し、応募作品から44種を選考して作成したものです。

市内外にILCをPR
ILCジオラマ・
パネルの展示



企業情報交換会の様子

市では、ILCについて理解を深め、実現に向けた機運を醸成するため、市内の様々なイベント等でILCパネルやジオラマの展示等を行っております。2月17日には、一関市総

合体育館を会場に開催された第10回企業情報交換会(主催(公財)岩手県南技術研究センターなど)にILCブースを出展。ILCの心臓部である超伝導加速器洞やILCジオラマの展示などを行いました。

このほかに、5月20日(21日)に仙台市で開催されたG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議の歓迎レセプション会場や、5月28日(29日)に滝沢市で開催されたIWATEミライ博(主催岩手朝日テレビ)などにILCジオラマを展示するなど、市内外でILCのPRを行っております。



IWATEミライ博でのジオラマ展示

東山小学校の授業参観で
ILC授業を開催



ILC授業の様子

2月23日、東山小学校の授業参観において、6年生(66名)と保護者を対象にILC授業を開催しました。授業では、ILC推進課職員が講師を務め、紹介DVDやスライドを使ってILCの実験内容や北上高地が建設候補地に選定された理由などについて講演しました。参加した子どもたちは、自分たちが住む地域で世界最先端の研究が行われるかもしれないという話に熱心に耳を傾けていました。

市議会 ILC 誘致・
学術研究都市づくり調査
特別委員会

市議会では、ILCを見据えたまちづくりや、市の取り組み状況などに関する調査を行うため、5月17日にILC誘致・学術研究都市づくり調査特別委員会を開催しました。市のILC担当職員からILC実現に向けた市の取り組み状況などを説明したほか、県のILCキャラバンのメンバーである、県海外情報発信専門員の和山アマナ氏(米国出身)、奥州市国際化推進員のトマス・アンナ氏(米国出身)、市国際化推進員のネイト・ヒル氏(豪州出身)の3名が外国人の視点での地域の国際化に向



ILCキャラバンの様子

けた課題などについて講演しました。

トマス氏は、「外国人が日本の生活で困った際、知り合いの外国人に相談するかインターネットで調べることがほとんど。ILCが実現すれば日本語が理解できる外国人も増えると思うが、現時点では日本語が理解できる外国人が少ないため、生活に必要な情報が伝わりにくい」と語り、早期に生活情報の多言語化が必要であることを強調しました。

和山氏は、県ではホームページを活用して災害時の避

難所や在留資格などの生活情報を英語で発信していることなどを紹介。生活情報で英訳する上で、情報が間違っていないか再翻訳して担当部署にチェックしてもらう必要がある、調整が難しいこと、英語以外の言語での情報発信も必要であることなどの課題についても述べました。

ネイト氏は、市内在住外国人から「クレジットカードが使えるお店が増えたら便利」「国際交流の機会を増やしてほしい」などの意見があったことを紹介。また、外国人向け生活情報のホームページ

ジへの掲載に向けた検討を始めていることなど、市の生活情報の多言語対応に向けた取り組みについても説明を行いました。

このILCキャラバンは、ILCの実現に向けた機運醸成を図るため、県が主体となつて今年度から実施しているものです。5人以上の団体を対象に、要望に応じて県内在住の外国人や担当県職員を講師として派遣し、外国人との交流を通じた地域の国際化に関する説明などを行っております。お気軽にお問い合わせください。

NEWS
ニュースクリッピング

最近の
ニュースを
ピックアップして
お届けします!

人材の確保・育成方策検証作業部会(第5回)

ILCに関する有識者会議「人材の確保・育成方策検証作業部会」は5月25日に第5回会合を開催し、同会議に提出する報告書の骨子案をまとめました。

骨子案では「ILCの実現には戦略的な人材育成が不可欠」としたうえで「若手人材を既存加速器施設の改修や機器の大規模なアップグレードなどに積極的に参加させたり、新たな加速器計画が実現する場合には、システム全体の総括ポストに登用し、マネジメントについて経験させること」などを提案。

今夏には、同部会の見解として有識者会議に対して報告書が提出される予定です。

超党派の国会議員連盟メンバーらが訪米

ILCの日本誘致を目指す超党派の国会議員によるリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟(会長:河村建夫衆議院議員)らが2月11日から3日間の日程で訪米しました。

11日は、今回初めて開催された「日米先端科学技術フォーラム」に参加。参加者は、日米の発展や安全保障面で科学技術は重要として、ILCを含む先端加速器や宇宙利用、核融合、スーパーコンピューターの各分野で日米協力を強めるべきであるとの認識を共有。このフォーラムを重要な枠組みとして、活動を継続していくことが確認されました。

12日は「米シンクタンク・ハドソン研究所の国際リニアコライダー専門会合」に参加し、地元から参加した、東北ILC推進協議会の高橋宏明共同代表や岩手県ILC推進協議会の谷村邦久会長らが、地元の熱意を伝えるなど、活発な議論が行われました。

I chinoseki Lives Cosmopolitan



ケビン・カナリーさん

市ではILCの実現を見据え国際化を推進しています。ここでは、市内で活躍する国際人を紹介します。今回は、平成26年度から市内の小中学校で英語を教え、千厩町に住んでいるアメリカ・ニューヨーク出身のケビン・カナリーさん。

Q: 趣味は？

A: 音楽・映画・ゲームが好きで、その物語作りの手法が興味深いです。日本の文化や日本語を学ぶことが好きです。食べ物は辛いものが好きで、よく担々麺を食べます。

Q: 一関市のどんなところが好き？

A: 市民が温かく受け入れてくれていて、沢山の友達ができました。一緒にバーベキューしたりするのが楽しいです。

Q: 子どもたちの英語教育に関して何かやってみたいことはありますか？

A: 英語は言語であるとともに、世界の知識や他の文化と触れ合うことにつながる言語であることを伝えたいです。また、他の文化について学ぶことによって自分の習慣と伝統や自分自身についても学ぶことにつながります。

Q: 最後に、ILCの実現に向けて一言お願いします。

A: ILCは一関市のみならず世界にもたらす科学や医療などに於いての可能性がすごいので、実現して欲しいです。また、実現に伴う経済波及効果や国際的な発展が東北地方全体のイメージを変えるかも知れませんね。

English

教えてネイトさん!

今すぐ使える ネイトの英会話教室



A: This is a new ILC sign put up in the city!

B: I've seen different ones before. This one is simple.

A: Yeah. This one is near a road in the East Industrial Park, and there is another one in Hanaizumi.

B: I'll keep a look out!

(和訳)

A: これは市内に設置された新しいILC看板です!

B: これと違う看板を見たことあるけど、これはシンプルだね。

A: ええ。この看板は東工業団地の道路沿いであって、同じような看板が花泉町にもあります。

B: 今度探してみる!

お知らせ

◎いちのせきサイエンスカフェ (第1回・第2回) 開催のお知らせ

コーヒーを飲みながら、ILCや素粒子物理などの科学について、研究者などと気軽に語り合い、科学を身近に感じてみませんか？

【募集人数】30人程度 【参加料】200円 (ただし学生は無料)

【開催内容】下記のとおり

【参加申込】参加申込書を本ページ下段で紹介している専用ホームページからダウンロードしていただき、電子メールまたはFAXでILC推進課あてに申し込みください (先着順) 電子メール: ilc@city.ichinoseki.iwate.jp FAX: 0191-21-2164

【問合せ先】一関市ILC推進課 TEL: 0191-21-2111 (内線8646・8647)

| 第 1 回 | |
|-------|-------------------------------|
| 期日 | 平成28年7月31日(日) 14:00~16:00 |
| 場所 | 大東図書館 |
| 講師 | 東北大学大学院理学研究科 准教授 佐 貴 智 行 氏 |

| 第 2 回 | |
|-------|--|
| 期日 | 平成28年9月3日(土) 14:00~16:00 |
| 場所 | 川崎市民センター |
| 講師 | 高エネルギー加速器研究機構名誉教授 東北大学・岩手大学 客員教授 吉 岡 正 和 氏 |

◎ILCをもっと知ろう!

~勉強会・講演会への講師・キャラバン派遣~

市では、自治会や各種団体などが主催するILC勉強会・講演会に講師を派遣します。

市職員が講師としてお伺いするほか、実施内容に応じて、高エネルギー加速器研究機構(KEK)の研究者、岩手県のILCキャラバンの派遣についてのアドバイスも行っておりますので、お気軽にご相談ください。

ILCニュース Vol.17

いちのせきニアコライダー通信 July 2016

発行 岩手県一関市

編集 市長公室 ILC推進課

〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号
TEL 0191-21-2111 (内線8646・8647)
FAX 0191-21-2164
URL <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/ilc/>
E-mail ilc@city.ichinoseki.iwate.jp

HP、SNSでILC情報を発信中!

専用のHP(ホームページ)、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を利用し、ILCの情報を発信しています。

パソコンやスマートフォンなどの携帯端末から手軽に利用できますのでぜひご覧ください。

◎一関市国際リニアコライダー推進ホームページ

一関市 ILC 検索

